

(2) 令和7年度の校内での取り組み

① 風土作り

生活科・総合的な学習の時間の時間割の作成…職員室の出入口に掲示し、先生方が気軽に授業を見られるように作成した。

## R7 生活科・総合的な学習の時間の時間割

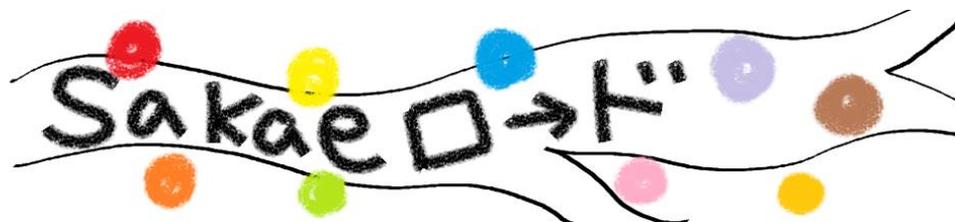
	月	火	水	木	金
<b>1</b>					5の1 5の2
<b>2</b>	6の1 6の2		6の1 6の2		
<b>3</b>		2の1 2の2		1の2	
<b>4</b>			4の1 4の2		4の1 1の1
<b>5</b>	1の1 1の2 3の1 3の2		1の1	2の1 2の2	2の1 2の2
<b>6</b>		1の2 3の1 3の2 5の1 5の2	メイプル 		4の2

数分でものぞいてみませんか？

1～2年生：生活科

3～6年生、メイプル：総合

- ② 掲示板での共有と研究推進だよりの発行…クラスの授業の様子をアップしたり、情報提供として配布したりした。



新座市立栄小学校  
研究推進だよりの  
令和7年10月20日  
作成者 門脇

## 南部地区小・中学校等授業研究会【総合的な学習の時間】！

10月17日(金)に、和光市立第五小学校で総合的な学習の時間の授業を参観してきました。4年生で、単元名は「五小！福祉でみんなを幸せに」でした。指導案を見ると、①「福祉」について知る→②「障がい」について考える→③「誰もが楽しめる遊び」について考える→④「福祉の大切さやよさ」を伝えるという4つのスパイラルを回す単元計画となっていました。授業が始まる前の全体会で、若村先生が「対象を絞らずに意見を出しているか」「4つの視点はどうか(ルール・道具・盛り上がる・安全)」の2点授業を観るポイントとしてお話してくださいました。また、「子供の姿をよく見取ること」を大切にということも話されていました。

授業は、③「誰もが楽しめる遊び」について考えるの整理・分析の所でした。本時のめあては、「だれもが楽しめる遊びの工夫を考えよう」です。学習活動は、本時のめあてを押さえ流れを確認する→グループごとに遊びの工夫について話し合う→グループで話し合ったことを全体共有する→ノートに振り返りを書くという形で進められていました。子供たちのタブレットに4つの視点それぞれを具体化したもの【写真A】が入っていて、いつでも見られるようになっていました。私が授業を参観していて、「この具体化されたものは、子供たちの話し合いを進める上で非常に効果的だったな。」と感じました。例えば、風船ラリーのグループで子供たちは(タブレットを見ながら)「道具は、風船にすずを入れると音が鳴って分かりやすいよね。」「小さい子にも分かりやすいよ!」「どんな工夫ができるかな?」「もり上がるように、レベルをつけてみたらどう?」「高れい者だと分かりづらかな…。」と活発な話し合いを繰り返していました。それを、フィッシュボーン【写真B】にも書き込んでいきます。シンキングツールの選択も効果的だったと思いました。グループで話し合ったことを全体で共有する時には、風船ラリー・?ボックス・福笑い・神経衰弱・ボーリング・絵しりとりなどのグループからの意見(絵しりとりなどのグループのみ時間の関係で意見が聞けなかったのですが…)が黒板に集約されていました。【写真C】上西先生がそれぞれのグループに「何でそう思ったの?」「どんな工夫をしたの?」「似ている意見の人いる?」等と上手く問いかけ、子供たちの意見を整理していたからこそ

の板書でした。指導・講評の時に、若村先生が「教師の役割は、引き出す・つなげる・広げる」ということを話されていました。他教科にも通ずるものだと思いますので、先生方も是非実践されてみてください。最後の振り返りでは、子供たちがノートに本時を振り返ってどうだったのか気付いたことや学んだ事等を書いていました。ある児童が、「他のグループから、色々な意見が出ていました。その中には、にている所もありました。」と発表していました。指導案から、上西先生の方で子供たちに気付かせたい所が文章でしっかり表されていたと（発表を）聞いていて思いました。

協議会では、小中学校の先生方5名と「主体的な学び・対話的な学び・深い学び」を軸に「児童の姿・教師の手立て・その他」について付箋（赤：成果、青：課題、黄色：課題を解決するための手立て）を貼り付けながら話し合いました。【写真D】（→※写真だと分からないので…一部ですが、表にまとめてみました。）指導・講評は、本校の研究でも大変お世話になっている若村先生からでした。箇条書き（☆）でまとめます。

☆総合的な学習は、単元全体が重要で学習指導要領をベースに教材研究をすること。

その際に、今回の授業で考えると…「そもそも福祉って何だろうか?」「福祉で大切にすべきことって何だろうか?」「みんなの幸せって何?」など子供たちの概念形成（評価規準の文言にもなります）をどうするのか材の本質を教師が理解しておくこと。

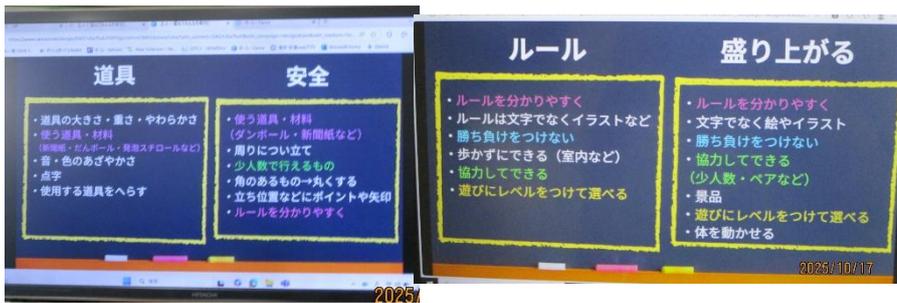
☆タブレットや掲示物は、情報の拠り所となる。

☆教師が事前に、探究のプロセス・単元計画をしっかりと立てることが大切。

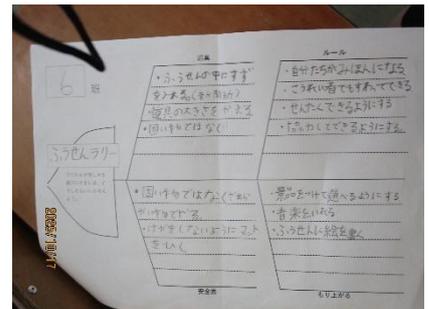
栄小学校では生活・総合を研究しているということもありますが、日々の生活・総合の授業づくりを丁寧にさせていただき、ありがとうございます。先生方のおかげで年々、子供たちが主体的に生き活きと活動している様子が多く見られるようになってきました。今回の報告でも参考になる部分がありましたら、授業づくりに生かしてみてください。

今後は、1月20日（火）に研究発表会を控えているので、ご協力いただくことが多くなっていきます。何かありましたら、いつでもご意見やご相談ください。先生方と知恵や意見を出し合って創る研究(発表会)にしたいと考えていますので、引き続きよろしくお願ひします。

【写真 A】



【写真 B】



【写真 C】



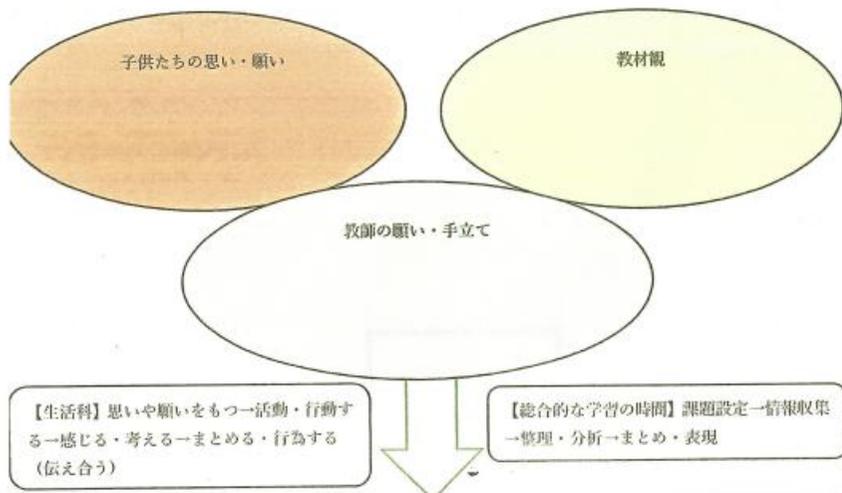
【写真 D】





④ 単元構想図の作成…教材研究のはじめに、授業構想を描き活用できるように作成した。

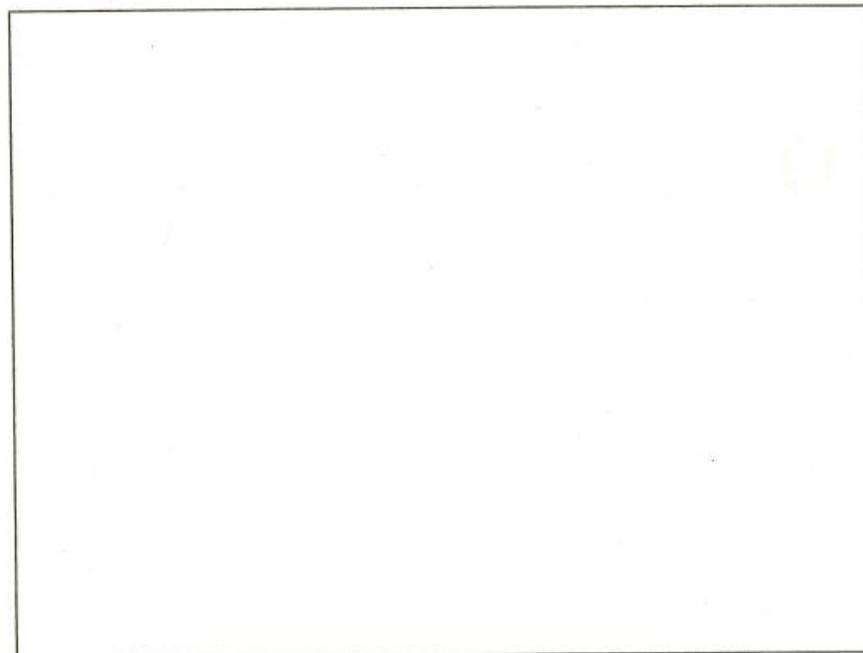
◎ウェビングをして、材としての広がりや想定をみましょう！（広がるものの方がよいです）  
このまま単元構想（小単元づくり）として、活用することもできます。



ストーリー（ウェビングを基に子供たちの思考を想定して流れをつくってみましょう！）

小単元①

◎ウェビングをして、材としての広がりや想定をみましょう！（広がるものの方がよいです）  
このまま単元構想（小単元づくり）として、活用することもできます。



【単元構想のチェックポイント】

- 子供たちの思いや願いを中心に単元が報られているか
  - 子供たちにとって、身近で繰り返し関わることで価値が広がる対象（材）になっているか
  - 学習材に対して、関わりが期待できる「ひと」が考えられているか
  - 子供たちにとって学ぶべき意味・価値のある内容が分析されているか
  - 縦のつながり（グランドデザイン）や横のつながり（単元配列表）が双方向に発揮されているか
  - 小単元のつなぎ目がスムーズに行えるようになっているか
  - 以下の目指す児童像に向かえるような構想となっているか
- ① 「必要感・切実感をもつ子」
    - ・子供たちが行動や実践から単元の学習を始めれば、興味関心が高まり「！」（気付き）や「？」（疑問）を自ら見付けにいき本気の課題をもつだろう。
  - ② 「主体的に学ぶ子」
    - ・自分が見つけてきた！や？を学級で考えて向かう課題やめあてが決まれば安心感が生まれ、対話的になったり、没頭して取り組んだりして主体的に解決へ向かえるだろう。
  - ③ 「自分の生き方に活かす子」
    - ・生活科や総合的な学習の時間を通して、社会や自然の一員として既習事項や他教科と合科化しながら何をどのようにしていくか考えたり、自分にとって学ぶことの意味や価値を考えたりしながら、自己の生き方の糧とするだろう。

